

1月号パラパニュース

特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟

事務局：〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2-4F

電話：03-6229-5423、FAX：03-6229-5420

メール：jppf.jimu@gmail.com

ホームページ：http://jppf.jp/

■ IBSA（視覚障がい者世界選手権）

報告、柴田秀男コーチ

【会場】

あいかわらず、各イベントの when と where が分からないことが多いが、ホテル内の「Palm ball room」という大きなイベントホールが大会会場・トレーニング場所・オープニング並びにクロージングの会場となった。しかも宿泊した部屋から目と鼻の先なので非常に便利であった。

【スケジュール】

◇ Classification 大谷は必要なしでした。

◇ Accreditation

IDカードの交付のことで、支払いの際に受け取って終了。

◇ Technical Meeting ここでウクライナからの提案が2件あり、議論をして可決した。

①コールから試技を始めるまでの時間を、60秒→90秒にする。今回から適用した。

②女子の参加機会を男子と同等にする。9つの体重区分はそのまま、10人までエントリーできる。

◇ Nomination Procedure Seminar … 大会2日目の表彰式終了後

ネザム氏に出席すると言われていたので行ったが、出席者は10名ほどでウクライナ、エジプト以外の国の人はいなかったようである。大会役員（計時等の担当者らしい）が説明。

・ Why nomination are important /What the rule says about nomination などの内容で、nomination の意義、年齢区分のこと、nomination list の書き方などの説明と質疑。

・ ベンチプレスだけの選手がいるので、次のような方法が考えられるとのこと。

①一日はベンチのみ、もう一日で他の種目を行う ②各種目をそれぞれ別の日に行う

◇大会当日の検量とコスチュームチェック

・「検量」は予定通り9時から、張り出された名簿順に行われ、その際に「誓約書」も提出する。

検量は 74.8kg（ラックの高さ No.5、センター補助あり、第1試技 120kg を申請）

金曜日到着時の夕方に 75.0kg、大会前日の夕方に 75.3kgだったので、この2回は夕食を食べず、大会当日の朝はしっかり食べた。ライバルのオマル（トルコ）は 74kg前後と軽い。

- ・「コスチュームチェック」は、検量前の8時頃から実施されたが、事前にこの情報を知らず、早めに様子を見に行き、事無きを得た。(昨年も時間を知らされず検量後にネザム氏にチェックをしてもらった。)

【試技関係】 ◇トレーニング … 到着翌日の16日(土)12時～14時

- ・当日の午前中に知らされ様子を見に行くと、まだ器械の組み立て中だったので、担当の役員(エジプトの人で、昨年顔見知り)に頼んでベンチを付けてもらい、12時半ごろ開始。
- ・40kg、60kg、80kg、100kgを各3回ずつリフトアップして終了。肩の痛みもなく、100kgがとても軽く感じるという。

◇大会当日のウォーミングアップ … 19日(火)、出番予定時刻の50分前から。

- ・40kg、60kg、80kg、100kgを各3回ずつリフトアップし、軽いので110kgもやりたいと言ったが、いったん終了。
- ・本番の30分前に終わったので体が冷えないように、20分前に、100kgを3回ずつリフトアップして終了。肩の痛みもなく順調。

◇本番 … 56kg級から82.5kg級を三つのグループに分けて実施された。グループA：56～67.5kg級(8人)、グループB：75kg級(9人)、グループC：82.5kg級(7人)。

◇結果

- ・クロフ(ウクライナ) … ①145kg○ ②152.5kg○ ③157.5kg
- ・オマル(トルコ/マスター) … ①120kg○ ②127.5kg○ ③130kg→132.5kg○
- ・大谷(日本/マスター) … ①120kg× ②120kg○ ③130kg→132.5kg○

オマル(トルコ)の体重が軽いので、3回目に申告した130kgを132.5kgに変更して成功したが、相手も132.5kgに変更。同記録となり、惜しくも体重差で、マスターは2位(記録は1位タイ)。オープンでは3位(記録は2位タイ)となった。

【経過】

- ・クロフは昨年よりパワーアップして問題外に強いので、オマルをマークした。



- ・1回目は左の肘が伸び切らずに×。本人が言うには、軽く上がったので何か変な感じだった、肘が曲がっているとは思わなかったとのこと。控えに戻ったときにチェコの Karpíšek 氏（英語がほとんど話せない）が来て、肘のことを指摘。大谷の腕を持ち、伸びていないのは bad、伸びているのが good とアドバイスをしてくれた。

※ Karpíšek 氏 … 昨年知り合い懇意にしていた。ほとんどの時間で主審を務めるレフェリーで、このときはたまたま審判団に入っていなかったため、駆けつけてくれた。

- ・2回目は比較的スムーズに挙がる。
- ・3回目はオマルの 130kg 申請を見て、132.5kg で勝負することにして変更申請した。ちょっともたついた感じだが挙げた。ところが、試技の順番は大谷が後だったので、オマルは 130kg のままと思い込み、彼が 132.5kg に変更していたことに気が付かなかった。
→ 135kg にしたら、失敗の可能性が高かったと思う。
- ・もし3回目に失敗すれば記録は 120kg で、4位の選手と同記録、体重差で負けていた。
- ・センターサポートの必要はなかったが、事前の申請で補助有にしたため、本人がラックから外して構えるまで柴田がすぐ傍にいて、一声（肘をしっかり伸ばそうとか、思い切っていこうなど）かけてから離れた。結果的に、本人には安心感があったとのことである。
- ・バーについている印の間隔が本番用は 81cm だが、練習用（当日のウォーミングアップ用も）が 91cm あり、これに大谷が気が付き、握る位置を調節した。ウクライナチームは細く切ったテープを本来の位置に巻いていた。（柴田がメジャーで測っているとウクライナのクロフが教えてくれた）

【その他の危機】出発前に柴田は 400 U S ドルを持参したが、大谷は空港で両替の時間がなかった。（両替所で並ぶ間にゲートインの時刻終了のアナウンス）

◇観光 … 21日（木）ギザの観光

スケジュール表に各チームは「・・・responsible to pay・・・」とあり、支払いがあるかもしれないと覚悟していたが、大谷は今までは払ったことが無いという。しかし、

- ・当日、バスに乗りこむ直前に 60 ドルを要求された。宿泊代の立替と土産代で手持ちのドルがなく、交渉により日本円で 6600 円支払い、バスに乗ることができた。



- ・ホテルで日本円の両替はできない。銀行は2時に閉まりツアーのあとでは間に合わないという。支払いを後にしてもらい、翌日銀行へ行って替えると言うと、スタッフが銀行で両替するので、我々は行かないでOKとなり一件落着。

◇空港への送迎 … 22日（金）ホテルのロビーで15時

15時にロビーで待つことを約束していたが、結局16時15分頃迎えが来た。

- ・フライトが19:20なので時間的には余裕があったが、万一に備え、迎えが16時までに来なければタクシーを使うことにして、フロントに頼んでいた。

- ・空港まで29kmでタクシー代金は約300エジプトポンド（2000円弱）。しかし手持ちは日本円だけなのでカードを使うつもりでいると、タクシーは現金のみという。

- ・ホテル内のショップの人（土産を買ったり、時々お茶を飲みに行って顔なじみになっていた）に相談し、現金を融通してもらうことにした。方法は、カードで500エジプトポンド（3000円ちょっと）を支払い、私が400エジプトポンドを受け取るというもの。彼がマージンとして100エジプトポンド取ることとで了解した。

- ・フロントでタクシーを頼もうとしたところで迎えがやって来た。車が飛ばしたので、17時前に空港に到着。しかし降りて建物に入ると見覚えのある国内線のターミナルだったので、昨年通った道順で国際線ターミナルまで移動。一件落着。

【感想】

昨年は、私にとって全く未経験の世界、競技も大谷さん次第ということで、ネザムさんを始め外国のコーチなどに助けられながらも何とか役目をこなしてきました。今年は、出発前からの大谷さんの不調もあり、昨年の経験があるためにかえって責任を感じていました。

本番直前までは順調でしたが、いきなり no lift で始まったのでなおさらです。大谷さんは普段ストレスをほとんど感じないようですが、さすがに2, 3本目の重量申請と試技に関しては、気持ちを引き締めたようです。私もストレスには強いと思っていますので、何とか「コーチ」（IDカードの記載によると）の役割をこなすことができました。

